

★ かながわの学びの充実・改善のための重点事項

① 子どもたちの学びに対する意欲の向上 (p. 4・5)

- 「各教科の勉強が好き」「自分には、よいところがある」「先生は自分のよいところを認めてくれている」と回答している児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

POINT!!

- 教員が、児童・生徒のよさや可能性を積極的に認めるとともに、子どもたちが互いを認め合える授業づくりや学級づくりに取り組んでいくことが重要です。

② 自分の考えを文章等で表現する力の向上 (p. 6・7)

- 自分の考えを文章等で書く問題の正答率は、他の問題と比較して低い傾向にあります。また、選択式や短答式に比べ、記述式の問題の無解答率は、特に中学校では高い傾向にあります。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と肯定的に回答する児童・生徒ほど各教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

POINT!!

- 自分の考えを文章等で表現するには、材料を集めたり、考えを形成したり、構成を考えたりする必要があります。そして、教員は、児童・生徒がその過程のどこでつまづいているかを把握することが大切です。その上で、他者と交流する活動を、意図的・計画的に取り入れた授業を行うことが重要です。

③ 授業改善の推進 (p. 8・9)

- 課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができている児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られます。
- 「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ児童・生徒は、家庭の社会経済的背景（SES）が低い状況にあっても、各教科の平均正答率が高い傾向が見られます。
- ICT 機器を活用する自信がある児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

POINT!!

- 各学校は、日々の教育活動の一層の充実を目指し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に引き続き取り組んでいくことが重要です。

④ 地域・家庭と学校が連携・協働した教育活動の推進 (p. 10・11)

- 家庭学習について、児童・生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行っている学校ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られます。
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている児童・生徒の割合と、実際に地域の大人と関わりをもっている児童・生徒の割合には大きな差があります。

POINT!!

- 各学校は、地域の人材や教育資源を学校教育の中で積極的に活用することが大切です。そして、地域や家庭と連携しながら、児童・生徒が地域や社会に関わろうとする意識を育む教育課程の編成や、単元計画の作成を行っていくことが重要です。